



## 農村の快適な民泊に

# スポットを当てた「gocchi荘」

金丸弘美

食総合プロデューサー

農村や漁村の民泊のインターネット旅行サイト『gocchi荘（ごちそう）』。北海道から九州まで約60軒の農家民泊が紹介されている。ひとつひとつの宿の案内が実に丁寧で写真も豊富。

餅つき、栗の渋皮煮、流しそうめん、鶏小屋から卵をとって棚田のお米の朝ご飯、畑の野菜でのBBQ、宿主が漁港から仕入れた魚での料理、ジビエ料理、スイカ、桃、柿など季節の果実のデザート。どれもが美味しそう。土地ならではのそこ

でしか食べられない、まさに「ご馳走」が登場する。宿の間取りや部屋の雰囲気、宿主のキャラクター、最寄りの交通機関からの様子、周辺の食べべ物屋、農産物直売所、自然環境、酒蔵、郷土の菓子

店、城、神社なども紹介される。宿自体が個性的で面白い。棚田に囲まれた古民家、漁港の傍で海が見える民宿、茶畑に囲まれたゲストハウス、傍らに小川が流

れる一軒家、ロケーションも抜群。都会を離れ、美味しい空気、木々や花々の香り、鳥のさえずりを満喫しようとも思わせてくれる。サイトは多言語対応にもなっている。

『gocchi荘』を主宰するのは岡田奈穂子さん。岡田さんは株式会社Tableclothというオーダーメイドの海外旅行の会社を運営している。岡田さんを入れて女性2名の会社。

岡田さんは、以前は大手通販会社に勤めていて海外の小物雑貨の企画・輸入に携わっていた。休暇をすべて海外旅行に費やし、宿も食事処も自分でチョイスしていた。その噂を聞きつけた友達や仲間から、プライベートな海外旅行を頼まれボランティアで旅行手配を始めた。それが人気になったことから、自らオーダーメイドの旅の会社を立ち上げたというわけだ。ヨーロッパ中心の旅の会社としてスタートし、次に始めたのが、国内農村の旅行サイト『gocchi荘』だった。

岡田さんと知り合ったのは、和歌山県田辺市営業室企画員・鍋屋安則さんの紹介から。

鍋屋さんは「たなべ未来創造塾」の担当。塾は富山大学と市、金融機関、地域事業社などと連携し2016年から始まった。この塾、20代から40代までで、事業意思のある人12名を募集し選抜14回の講座で事業計画をまとめ起業に導くという



100年前の家をDIY。兵庫県丹波市の「古民家ゲストハウスやまぼこ」



イタリア・トスカーナのアグリツーリズモでの岡田さん(左)

もの。現在、6期を迎える。事業計画にあたっては金融機関もアドバイスをする。そして融資も行われる。4期で33の起業が生まれ達成率は70%。大きな注目となっている。

塾の1期生として入塾したのが、田辺市龍神村に東京から家族で移住した金丸知弘(長男)。彼は住まいの近くで空き家になった一軒家をリノベーションしゲストハウスにした。広域で周遊して観光に繋ぐ事業計画を塾で発表し、塾生の協力、日本政策金融公庫の融資も受けてスタートした。宿はまるまる一軒家を貸しだすもの。名前は「一棟貸宿 小家御殿」。現地に行ったら、こんなところには観光客が来るだろうかと思えるような山の中。まるで「ポツンと一軒家」だ。

知弘の一棟貸しを知った鍋屋さんが繋いだのが岡田さんの『g o c h i 荘』だった、というわけだ。そんな経緯があったことと、サイトが実によくできていることから岡田さんに会いたくなった。

さっそく彼女の事務所があった大阪(現在は兵庫県)でお会いした。彼女、これまでイタリア、フランス、スペイン、イギリスを始め、世界40か

国160都市を旅したそう。オーダーメイドの旅プランも200件以上手掛けたという。

イタリアでは農家で宿泊をするアグリツーリズムが2万軒以上もある。山のなかの一軒家も珍しくない。フランスでは一棟貸しが4万軒以上ある。キッチン、ベッド、シャワーなどが備えてあり、地元料理を食べ、ワイナリー、チーズ工房や農家レストランなどに行き、美味しい空気と、そこならではの食事を楽しんで快適に過ごすことができる。家族や仲間と余暇を田舎で過ごすことがフランスやイタリアでは定着している。

しかも国全土のマップもサイトもあり、自分の好きな宿、環境、料理やシチュエーションを選んで小旅行ができるようになってきている。実際に泊まりに行くとは宿泊施設も快適で、土地ならではの食をいただくことができる。

岡田さんと話をしたら、フランスの一棟貸し「ジャンブル・ドット」、イタリアの農家宿泊「アグリツーリズム」、イギリスの朝食付きの宿「B&B (Bed & Breakfast)」もよくご存知。自らの旅でも利用し、オーダーメイドの旅でも使っているというから、海外の農村での観光や楽しみを熟知している方だとわかった。日本では、海外のように農家民泊の全国マップはないし、宿だけではなく、食べ物や体験などを詳細の紹介するサイトも充分ではない。

そんなことから、女性でも安心して行けて、子供が騒いでも大丈夫な宿を、一軒一軒取材し、宿の了解を得て、新たな農村観光のサイトとして始めたのだという。宿は地方銀行や市町村の紹介を受け、そこから絞り込み、共感してもらえるところをアップしているというから素晴らしい。いままでは何気ない地方の農村が、憩いを生む素敵な場所と安らぎの場として広がっていくことだろう。